

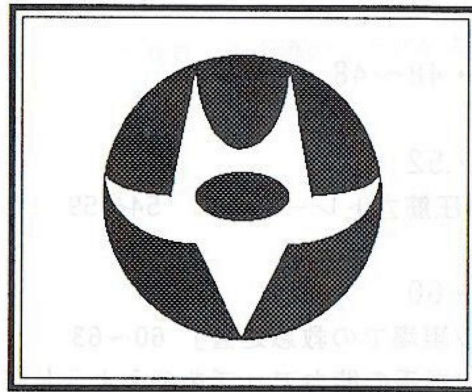
ISSN 1344-2473

Hiroshima-ken trainer Kyokai nenkaishi

Journal of Hiroshima Trainers Association

広島県トレーナー協会 年会誌

第27巻 2025



広島県トレーナー協会

HIROSHIMA TRAINERS ASSOCIATION

目次

国民スポーツ大会（中国ブロック大会・2025 国スポ） 活動報告書

競技種目（種別）	自転車競技（男子 A・男子 B・女子）
所属	広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名	有馬 知志-----1
競技種目（種別）	水泳（競泳）
所属	広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名	田村 佑樹-----3
競技種目（種別）	ソフトテニス（成年女子）
所属	広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名	小田さくら-----4
競技種目（種別）	ソフトテニス（少年男子）
所属	かとう整形外科スポーツ運動器クリニック
氏名	伊藤 博志-----5
競技種目（種別）	ハンドボール（成年男子）
所属	浜脇整形外科リハビリセンター リハビリテーション科
氏名	園生 真弘-----8
競技種目（種別）	ハンドボール（少年男子）
所属	Empower Life
氏名	大岡 恒雄-----11
競技種目（種別）	ホッケー（成年女子）
所属	おかもと整形外科クリニック
氏名	相原 一勢-----13

競技種目（種別） バスケットボール（少年男子）
所属 広島大学大学院医系科学研究科
氏名 尾上 仁志-----16

競技種目（種別） ラグビーフットボール競技（成年男子）
所属 朝日医療専門学校広島校
氏名 河原 一仁-----18

競技種目（種別） ハンドボール（成年女子）
所属 おかもと整形外科スポーツクリニック
氏名 島 俊也-----19

全国障害者スポーツ大会
活動報告書

競技種目（種別） 卓球（一般卓球）
所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名 長尾 拓海-----20

競技種目（種別） ボウリング競技
所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名 高上 凌弥-----21

競技種目（種別） 水泳競技
所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名 石田 礼乃-----22

協会活動報告（2025年度）-----23

広島県トレーナー協会規約-----25

編集後記-----32

投稿規定-----33

国民スポーツ大会

(中国ブロック大会・2025 国スポ)

活動報告書

第 79 回国民スポーツ大会（本国）

競技種目（種別） 自転車（男子 A・男子 B・女子）

所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室

氏名 有馬 知志

【はじめに】

この度、第 79 回国民スポーツ大会での自転車競技に広島県選手団のトレーナーとして帯同させていただく機会を得たので、そこでの経験についてここに報告する。

【事前準備】

大会に先立ち、事前合宿が令和 7 年 9 月 13 日～15 日の 3 日間にわたり、玉野競輪場（岡山県）で実施された。報告者が広島県選手団の自転車競技に携わるのは、今回で 2 回目であったため、大会本番でのサポートに向けて、初対面の選手の基本情報や身体状況の確認・把握から実施した。その後、選手の身体状況に応じてセルフケアや補強トレーニングを個別に確認、指導を行う場面もあった。

また事前準備として、自転車競技で特徴的な、落車による擦過傷や打撲、出血等への応急処置のためガーゼ、保護フィルム、バンテージ等の応急処置のための物品を大会期間中の雨天予報も踏まえて準備を行った。

【活動報告】

主なトレーナーとしての活動内容は、試合前後ならびに宿舎に帰ってからのコンディショニングやリコンディショニング、トレーニング対応であった。大会全期間を通して、試合前後の対応は、選手ごとにレース時間が異なることもあり、選手、監督と相談し対応を行った。試合後は、宿舎に移動し主にリコンディショニングを目的とした対応を実施した。対応件数は 29 件で、1 件あたりの対応時間は 30～40 分程度であった。対象部位は大腿が 15 件と最多であり、次いで腰部が 12 件、下腿が 10 件であった。対応内容としては、ストレッチとマッサージがそれぞれ 29 件と全ての対応で実施した。自転車に乗る姿勢保持やペダリングの影響から、昨年同様に記載した部位での症状の訴えが多くみられたと考える。

【結果】

大会を通しての結果は、男子 A 1km タイムトライアル 2 位、男子 A ケイリン優勝、男子 A スプリント 6 位、男子 B 1km タイムトライアル 6 位、男子チームスプリント 3 位であり、広島県選

手団として総合 9 位となった。また男子 A で「わた SHIGA 輝く賞 (MVP 賞)」を獲得した選手もいた。広島県としても過去最高に近い結果となり、チームとしての強化の結果がみられた素晴らしい大会となった。

【反省】

報告者は、自転車競技の広島県選手団にトレーナーとして関わるのが 2 回目であった。昨年度は、自転車の競技特性など分からない点が多くあり、救急対応やコンディショニング、リコンディショニング、トレーニング対応を選手に十分に提供できなかったと感じる場面もあった。今年度は、昨年度の反省を活かして、重大事故も含めた救急対応に関して、事前の勉強、トレーナー用品の準備を昨年度以上に入念に行えた。また、自転車競技特有の身体フォームや動かし方によって生じる身体症状の予測やそれに対する対応についても、昨年度よりも選手やスタッフと意思疎通を取ってサポートができたと感じた。しかしながら、試合前後で選手がパフォーマンスを発揮するためにトレーナーとしてできる指導がまだまだあると感じたため、今後はより選手のパフォーマンス向上を意識してサポートしていきたい。

最後に、本大会に帯同する大変貴重な機会を与えてくださいました皆様に心より感謝申し上げます。

競技種目	自転車競技
種別	男子A・男子B・女子
帯同期間	2023年9月19日(金)～9月25日(木)
競技会場	京都向日町競輪場(トラックレース)、東近江市特設ロードレースコース(ロードレース)
選手	男性6名、女性1名
スタッフ	監督2名(男女)、コーチ2名、トレーナー1名
競技成績	男子A 1kmタイムトライアル2位、男子Aケイリン優勝、男子Aスプリント6位、男子B 1kmタイムトライアル6位、男子チームスプリント3位

トレーナー活動集計表

項目	対象部位	延べ件数
①	頭部	0
②	顔面	0
③	歯・口腔・顎	0
④	頸部	0
⑤	肩・鎖骨	0
⑥	上腕	0
⑦	肘	0
⑧	前腕	0
⑨	手	0
⑩	手指	0
⑪	背部	0
⑫	胸部	0
⑬	腹部	0
⑭	腰部	12
⑮	臀部	6
⑯	股・鼠径部	0
⑰	大腿	14
⑱	膝	1
⑲	下腿・アキレス腱	10
⑳	足	3
㉑	足趾	0
㉒	その他	0

項目	外傷	延べ件数
①	捻挫	0
②	打撲	0
③	骨折	0
④	脱臼	0
⑤	靭帯断裂	0
⑥	筋断裂/肉ばなれ	0
⑦	腱断裂	0
⑧	軟骨損傷(半月板損傷も含む)	0
⑨	筋膜炎	0
⑩	骨膜炎	0
⑪	擦過傷	0
⑫	刺切傷	0
⑬	その他	0

項目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	0
②	疲労回復	29
③	リラクゼーション	29
④	筋力増強	0
⑤	可動域改善	3
⑥	安静固定	0
⑦	消毒	0
⑧	止血	0
⑨	その他	0

項目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	0
②	テーピング	0
③	弾性包帯	0
④	簡易装具	0
⑤	マッサージ	29
⑥	ストレッチング	29
⑦	マニュアルセラピー	0
⑧	ホットバック	0
⑨	足低板	0
⑩	超音波	0
⑪	低周波	0
⑫	水治療	0
⑬	その他	0

項目	対処場所	延べ件数
①	現場	7
②	宿舎	22
③	医療機関	0
④	その他	0

国民スポーツ大会（本国）

競技種目（種別） 水泳（競泳）

所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室

氏名 田村佑樹

【はじめに】

この度、第79回国民スポーツ大会（湖国の感動 未来へつなぐ わたし SHIGA 輝く 国スポ・障スポ 2025）の水泳（競泳）競技に広島県選手団のトレーナーとして帯同させていただく機会を得たので、ここに報告する。

【事前準備】

6月4日（水）～7月23日（水）の毎週水曜日に、国スポ候補および内定選手を対象とした週1回の合同練習会（ひろしんビッグウェーブ）に参加した。本大会での入賞に向け、水中練習前のウォーミングアップ、練習後のクーリングダウンの指導に加え、陸上での体幹トレーニング指導を実施した。陸上トレーニングでは、持参したセラバンドを活用し、より高負荷で実施できるように工夫した。

9月6日（土）～7日（日）は、福岡県北九州市の桃園市民プールにて国スポ強化合宿、9月10日（水）～9月12日（金）は、大阪府東大阪市の近畿大学にて国スポ事前調整合宿が行われた。合同練習会と同様に、水中練習前のウォーミングアップや陸上での体幹トレーニングを指導した一方で、8月の全国大会の連戦で疲労が蓄積した選手も多かったことから、選手のコンディショニング調整に留意しながら実施した。

【活動内容】

9月12日（金）には滋賀県の宿舎へ移動し、前日練習に参加した。本大会は9月13日（土）～9月15日（月）の期間で、インフロンア草津アクアティクスセンターにて開催された（図1）。広島県選手団は監督1名、コーチ4名、医師1名、トレーナー1名、成年選手4名、少年選手14名のチーム編成であった。トレーナーベッド2台、救急セット（絆創膏、体温計など）、テーピング、バランスボール、ストレッチポール、セラバンド、氷嚢を持参した。

大会期間中の主な活動内容は、レース前の陸上セットアップ、レース後のケアであった。監督や選手、担当コーチと相談し、レースや水中アップの時間から逆算して、対応時間を決定した。宿舎では、翌日にレースを控える選手を優先し、ケアおよびコンディショニングを実施した。

大会期間中の外傷発生はなかったが、慢性的な腰痛を訴える選手に対して、リラクゼーションや体幹筋力強化練習、基本動作の修正を実施した。

【結果】

広島県選手団の入賞者は以下の通りである。

- ・成年男子 100m 平泳ぎ 第4位
- ・成年女子 200m 個人メドレー 第4位
- ・少年男子 B400m 自由形 第3位

以上、広島県選手団は合計 16 点を獲得した。

【反省】

前年の国スポ SAGA2024 と比べて、入賞者数および得点が減少した悔しい結果ではあったが、自己ベストを更新した選手の割合は目標値より高く（31.2%）、一定の収穫がある大会となった。本大会ではレース前のセットアップの重要性を痛感した。大会初日は選手のルーティンを尊重し、要望があった場合のみ個別のアップ指導を実施する形にしたが、ストレッチやモビリティだけでアップを終了する選手が多かった。2日目以降は、私が積極的にセットアップに介入し、セラバンドを用いた体幹・腱板トレーニングを行ったところ、ベスト更新率が上昇した。さらに、選手やコーチから「よく体が動いている」と、効果を実感する声も多くいただいた。実際、他県の上位入賞者は、選手自身でトレーニングメニューが確立されている印象があり、陸上でのアップの重要性を学ぶとともに、選手教育の必要性を強く感じた。この経験を、また今後の活動に生かしていきたい。

最後にはなりますが、本大会に帯同する機会をいただいた広島県スポーツ協会、広島県水泳連盟、広島県トレーナー協会の皆様に心より感謝申し上げます。

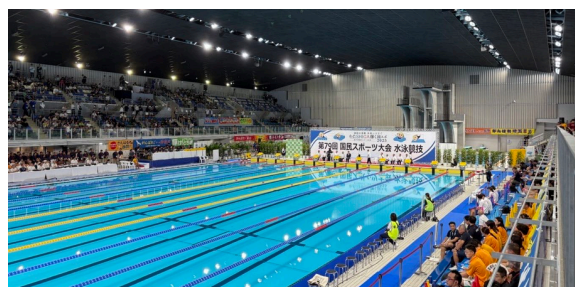


図1. 大会会場のメインプール

国民スポーツ大会（本国）

競技種目（種別） ソフトテニス（成年女子）

所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室

氏名 小田さくら

【はじめに】

この度、第79回国民スポーツ大会（わたSHIGA輝く 国スポ・障スポ2025）のソフトテニス競技に、広島県成年女子選手団のトレーナーとして帯同させていただく機会を得たので、活動内容を報告する。

【事前準備】

大会までの期間では、海田総合公園にて、8月9日（土）に選考会（8月10日および8月11日は雨天中止）、9月13日（土）～9月14日（日）の2日間に、山口県との合同強化合宿が行われた。選考会と合同強化合宿期間中には、練習前のウォーミングアップと、練習後のクーリングダウンの指導を担当した。また、大会までの期間を通して、監督およびコーチ陣とコミュニケーションをとり、選手のコンディションについて情報を共有した。

【活動内容】

本大会は、10月3日（金）～10月4日（土）の2日間に、滋賀県長浜市の長浜城テニスガーデンで開催された（図1）。成年女子ソフトテニス競技の広島県選手団は、監督1名、コーチ2名、トレーナー1名、選手5名のチーム構成であった。

10月1日（水）の午前中に広島市を出発し、10月1日（水）午後～10月2日（木）午前の期間で、兵庫県神戸市の天王ダムスポーツガーデンテニスコートにて事前合宿を行った。10月2日（木）午後には神戸市を出発し、会場地である滋賀県長浜市に移動した。

大会期間中の主な活動内容は、試合前のウォーミングアップ、試合後のクーリングダウン、ケアであった。試合開始前には、選手全員でアップ会場にてウォーミングアップを行い、試合開始後は1組目のゲーム時には2組目の選手、2組目のゲーム時には3組目の選手のウォーミングアップを行った。ゲーム直前には、アジリティトレーニングを中心にアップの内容を組んだ。またゲーム終了直後には、次戦に備えて各選手のクーリングダウンを行った。宿舎では、各選手のコンディションを確認し、希望があった選手のケアを実施し

た。大会期間を通して、外傷は発生しなかったが、下肢の疲労感や慢性腰痛を訴える選手に対しては、重点的にクーリングダウンやケアを実施した。

【結果】

1回戦で大阪府、2回戦で高知県と対戦し勝利したが、3回戦で宮城県に敗れ、ベスト16となった。結果の詳細は以下の通りである。

- ・1回戦：○広島県 3-0 大阪府●
- ・2回戦：○広島県 3-0 高知県●
- ・3回戦：●広島県 0-2 宮城県○

【反省】

合宿および本大会期間を通して、医療機関を受診するような大きな外傷なく選手がプレーできた。一方、1日に3試合を行う中で、試合を重ねるごとに疲労が蓄積する様子が見受けられた。短い試合間の中で、いかに疲労を回復することができるのか、また次の試合で選手がより良いパフォーマンスを発揮するために、いかに十分に効率的なウォーミングアップを実施できるかが重要であると感じた。

最後になりましたが、本大会に帯同する機会をいただいた広島県スポーツ協会、広島県ソフトテニス連盟、広島県トレーナー協会の皆様に心より感謝申し上げます。



図1. 試合会場となった長浜城テニスガーデン

国民スポーツ大会（中国ブロック大会）

競技種目（種別） ソフトテニス（少年男子）

所属 かとう整形外科スポーツ運動器クリニック

氏名 伊藤 博志

【はじめに】

この度、国民スポーツ大会中国ブロック大会のソフトテニス競技少年男子の部の広島県選手団にトレーナーとして同行する機会を得たので活動内容について報告する。

【事前準備】

中国ブロック大会前に実施された合宿において、選手のコンディションや既往歴、テーピングの要望などを把握した。朝のウォーミングアップや練習後のクールダウンを選手とともに実施する中で選手との良好な関係性の構築に努めた。また、監督とも積極的にコミュニケーションを図り、情報共有を行った。ドーピングに関する知識が十分でない選手も見受けられたため、エナジードリンクや漢方薬の使用状況を確認し、必要に応じて指導を行った。

【活動内容】

中国ブロック大会は8月23日、24日に、ドラパーク米子庭球場で開催された。チーム構成は選手5名、監督1名、コーチ1名、医師1名、トレーナー1名であった。

8月22日（金）の夕方に宿泊先にて選手と合流し、大会初日に向けて宿舎で身体のケアを行った。

大会当日は、朝および試合直前のウォーミングアップ、暑熱環境を考慮した暑さ対策、試合後のクールダウン、宿舎でのケアを行った。試合は初日に2試合、2日目に2試合の計4試合が行われ、団体戦はダブルス2試合とシングルス1試合の構成であった。コート1面での展開で試合が進行したため、試合後のケアと次試合に臨む選手のウォーミングアップを並行して行う必要があった。大会期間中は厳しい暑さが続いたため、熱中症対策としてこまめな水分補給の促し、試合間の氷水による手指冷却、日陰でのウォーミングアップを実施した。

【結果】

中国ブロック大会において、第三位で本国体出場には至らなかった。

大会1日目

● 広島県 2-1 島根県

● 広島県 1-2 山口県

大会2日目

● 広島県 2-1 鳥取県

● 広島県 0-3 岡山県

【反省】

本国スポへの出場は惜しくも逃すこととなった。選手と十分にコミュニケーションを取ることで良好な関係性を構築できたこと、大会期間中に熱中症の発生がなかったことは良かった。

厳しい暑さの中で、選手のコンディションを良好に維持することの難しさを痛感した。試合後には宿舎でのケアを希望する選手が多く、対応に時間を要したことから、限られた時間の中で選手の状態を整えるためにも、セルフケアを含め、日頃から選手自身のコンディショニングへの意識を高めておく必要性を実感した。また、ウォーミングアップに関しては、選手ごとに試合前のアップの強度や方法について個別の希望があったため、これらを事前に把握しておく重要性を再認識した。

最後にこのような貴重な機会を与えてくださった広島県スポーツ協会、広島県ソフトテニス連盟、広島県トレーナー協会の皆様に心より感謝申し上げます。



競技種目	ソフトテニス
種別	少年男子
帯同期間	2025年8月22日～8月24日
競技会場	どらドラパーク米子庭球場
選手	5名
スタッフ	監督1名、コーチ1名、医師1名、トレーナー1名
競技成績	中国ブロック大会第3位

トレーナー活動集計表

項目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	
⑤	肩・鎖骨	9
⑥	上腕	9
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	9
⑮	臀部	20
⑯	股・鼠径部	1
⑰	大腿	9
⑱	膝	
⑲	下腿・アキレス腱	9
⑳	足	
㉑	足趾	
㉒	その他	

項目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靭帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷(半月板損傷も含む)	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	1
②	疲労回復	65
③	リラクゼーション	
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	
⑥	安静固定	
⑦	消毒	
⑧	止血	
⑨	その他	

項目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	
②	テーピング	
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	57
⑥	ストレッチング	9
⑦	マニュアルセラピー	
⑧	ホットパック	
⑨	足底板	
⑩	超音波	
⑪	低周波	
⑫	水治療	
⑬	その他	

項目	対処場所	延べ件数
①	現場	2
②	宿舎	64
③	医療機関	
④	その他	

第 79 回国民スポーツ大会（中国ブロック大会・本大会）

競技種目（種別）ハンドボール（成年男子）

所属 浜脇整形外科リハビリセンター リハビリテーション科

氏名 園生 真弘

【はじめに】

この度、ハンドボール成年男子チームのトレーナーとして第 79 回国民スポーツ大会中国ブロック大会および本大会へ帯同する機会を得たので、事前準備を含めた活動内容について報告する。

【事前準備】

救急外傷等に対する応急処置が行えるよう、必要備品の入ったトレーナーバッグの準備を行った。チームは日常的に帯同をしている実業団単独チームであったため、選手の体調や既往歴、コンディショニング等については概ね把握していた。

本大会ではアンチ・ドーピング教育の受講が義務づけられている。日本スポーツ協会が配信している教材・ウェビナー動画にて受講。教育履歴カードに受講履歴を記入し持参した。

【活動内容】

【中国ブロック大会】

試合前日（2025/8/23）よりホテル入りし選手の体調確認やコンディショニング、監督との情報共有等を行った。選手の希望に応じて筋疲労部位への徒手療法、電気刺激装置を用いて物理療法を行った。

試合当日（2025/8/24）は試合前、希望者に対してコンディショニングを実施した。

試合終了後、アイシングが必要な選手に対して氷嚢を作成し配布。更衣室の片づけを行い帰路についた。

【本大会】

ブロック大会同様、試合前日（2025/10/2）にホテル入りし希望選手に対してコンディショニングを実施した。試合前および試合終了後宿舎にて、選手の希望に応じて筋疲労部位への徒手療法、電気刺激装置を用いて物理療法を行った。

救急対応は計 3 件であった。

止血 1 件 擦過傷に対してガーゼにて止血。競技復帰のためガーゼおよび伸縮テープを用いて圧迫。

足関節内反捻挫 2 件 2 件ともアイシング等 POLICE 処置に基づき対応。軽微なものであったため 2 日目以降プレーに影響はなかった。

※他対応 別紙参照

【結果】

中国ブロック大会 優勝
決勝 31-24 岡山県代表

本大会 3 位

1 回戦 42-20 北海道代表
2 回戦 33-30 宮城県代表
準決勝 17-22 佐賀県代表
3 位決定戦 37-27 京都府代表

【反省】

昨年度も国民スポーツ大会へ帯同させていただき、前回の反省から事前に会場に設置してある医療器具の確認や近隣医療機関および移動手段を確認しておくことができた。

普段の試合帯同と比較してスケジュールがタイトであり当日のスケジュールも含めてコンディショニングの管理に難しさを感じた。

最後にこのような機会を与えていただいた広島県スポーツ協会、広島県ハンドボール協会、広島県トレーナー協会各位、チームの選手やスタッフの方々、当法人会長をはじめ職場関係各位に深く感謝致します。

競技種目	ハンドボール
種別	成年男子
帯同期間	8/23-24
競技会場	J:COMアリーナ下関
選手	12名
スタッフ	監督1名、コーチ1名、トレーナー1名
競技成績	優勝

トレーナー活動集計表

項目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	
⑤	肩・鎖骨	1
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	3
⑮	臀部	
⑯	股・鼠径部	
⑰	大腿	4
⑱	膝	2
⑲	下腿・アキレス腱	3
⑳	足	1
㉑	足趾	
㉒	その他	

項目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靭帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷(半月板損傷も含む)	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	
②	疲労回復	6
③	リラクゼーション	6
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	
⑥	安静固定	
⑦	消毒	
⑧	止血	
⑨	その他	

項目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	
②	テーピング	
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	6
⑥	ストレッチング	6
⑦	マニュアルセラピー	
⑧	ホットパック	
⑨	足底板	
⑩	超音波	
⑪	低周波	
⑫	水治療	
⑬	その他	

項目	対処場所	延べ件数
①	現場	
②	宿舎	6
③	医療機関	
④	その他	

競技種目	ハンドボール
種別	成年男子
帯同期間	10/2～6
競技会場	プロシードアリーナHIKONE
選手	12名
スタッフ	監督1名、コーチ2名、トレーナー1名
競技成績	3位

トレーナー活動集計表

項目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	
⑤	肩・鎖骨	3
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	1
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	9
⑮	臀部	2
⑯	股・鼠径部	
⑰	大腿	12
⑱	膝	1
⑲	下腿・アキレス腱	9
⑳	足	4
㉑	足趾	
㉒	その他	

項目	外傷	延べ件数
①	捻挫	2
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靭帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷(半月板損傷も含む)	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	1
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	1
②	疲労回復	18
③	リラクゼーション	18
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	
⑥	安静固定	
⑦	消毒	
⑧	止血	1
⑨	その他	

項目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	2
②	テーピング	
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	18
⑥	ストレッチング	18
⑦	マニュアルセラピー	
⑧	ホットパック	
⑨	足底板	
⑩	超音波	
⑪	低周波	1
⑫	水治療	
⑬	その他	

項目	対処場所	延べ件数
①	現場	1
②	宿舎	18
③	医療機関	
④	その他	

第 79 回国民スポーツ大会中国ブロック大会

競技種目（種別）ハンドボール（少年男子）

所属 Empower Life

氏名 大岡 恒雄

【はじめに】

この度、第 79 回国民スポーツ大会中国ブロック大会にハンドボール少年男子のトレーナーとして帯同する機会を得たので報告する。

広島県少年男子ハンドボールチームは選手 14 名、監督 1 名、コーチ 3 名、トレーナー 1 名という構成であった。選手 14 名は県内 4 校から選抜されていた。本チームには 2021 年から帯同させていただいており、昨年よりコーチ 1 名が変更となったがその他はこれまでと同様のスタッフで活動した。

【事前準備】

昨年の中国ブロック大会敗退後、チームスタッフで近年の振り返りと今後について話し合いの機会を作り、昨年 9 月からハンドボール少年男子強化プロジェクトを立ち上げ参加していた。

「Power Up Academy（通称：PUA）」を発足させ、年間を通じて体力・技術・精神力（知力）を強化し、国スポ出場を目指す選手を育成することを目的に講習会や選考会などが月 1~2 回のペースで実施され参加した。ブロック大会前までの帯同日数は 12 日間であった。また、大会前の 7 月 18 日~21 日の期間で愛知県での強化合宿にも帯同した。

強化練習会等では全選手の既往歴や現病歴、服薬・アレルギーの有無などをメディカルチェックシートにて確認した。また、今夏も猛暑であったため、熱中症対策として水分・塩分補給を促し、食事指導も行った。また、コンディション管理として体重測定を継続して管理した。

【活動内容】

中国ブロック大会は 8 月 23 日~24 日に山口県下関市の J:COM アリーナ下関で開催された。今年少年男子の国スポへの出場枠は 2 県であり、中国 5 県で総当たりのリーグ戦であった。

大会前日の 8 月 22 日から帯同し、宿舎に到着してからは負傷者の確認や翌日の予定の確認などを行った。また試合当日の会場入りする前には、近隣のスーパーマーケットで補食やドリンクの買い出しに同行した。

大会期間中の外傷としては、1 名が下腿前面の擦過傷を受傷し応急処置を実施した。また、大会

前に受傷していたリスフラン関節捻挫が 1 名、膝蓋靭帯炎が 1 名おり、それぞれにテーピングを施行した。会場内は空調管理がされており、脱水などによる熱中症はみられなかった。その他として、ウォーミングアップやクールダウンを実施した。

【結果】

中国ブロック大会 3 位

大会 1 日目（8 月 23 日）

○広島県 37-32 鳥取県

○広島県 45-21 島根県

大会 2 日目（8 月 24 日）

●広島県 18-31 山口県

●広島県 18-39 岡山県

【反省】

国スポ出場を目指し例年以上に強化し大会に臨んだが、惜しくも 3 位となり今年度も出場権を逃した。年間を通じた強化を本格的に実施してきたが、望んでいた結果は得られなかった。ブロック大会直後に強化スタッフで振り返りを行い、少しずつ成果が出てきていると総括し今回実施してきた強化プロジェクトを継続していくこととなった。今後も本プロジェクトへの参加・協力を依頼されており、次年度以降の本国スポ出場に繋がるように尽力していきたい。また、大会期間中に大きな外傷や感染症等なく全選手が良いコンディションで大会を終えれたことは良かったと思う。強化プロジェクトに年間を通じて参加していることもあり、選手のコンディション把握やコミュニケーションなどに困ることもなく普段からの関わりができたことも良かった点と挙げられる。

最後に、今回も帯同の機会を与えてくださいました広島県体育協会、広島県ハンドボール協会、広島県トレーナー協会の皆様には深く感謝申し上げます。

競技種目	ハンドボール
種別	少年男子
帯同期間	2025年8月23日～8月24日
競技会場	J:COMアリーナ下関(山口県下関市)
選手	14名
スタッフ	監督1名、コーチ3名、トレーナー1名
競技成績	中国ブロック大会 3位

トレーナー活動集計表

項目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	
⑤	肩・鎖骨	
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	
⑮	臀部	
⑯	股・鼠径部	
⑰	大腿	
⑱	膝	2
⑲	下腿・アキレス腱	1
⑳	足	2
㉑	足趾	
㉒	その他	

項目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靭帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷(半月板損傷も含む)	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	1
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	
②	疲労回復	
③	リラクゼーション	
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	
⑥	安静固定	
⑦	消毒	
⑧	止血	1
⑨	その他	

項目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	1
②	テーピング	4
③	弾性包帯	1
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	
⑥	ストレッチング	
⑦	マニュアルセラピー	
⑧	ホットパック	
⑨	足底板	
⑩	超音波	
⑪	低周波	
⑫	水治療	
⑬	その他	

項目	対処場所	延べ件数
①	現場	5
②	宿舎	
③	医療機関	
④	その他	

わたSHIGA輝く国民スポーツ大会2025（中国ブロック大会・本国）

競技種目（種別）ホッケー（成年女子）

所属 おかもと整形外科クリニック

氏名 相原 一勢

【はじめに】

この度、わたSHIGA国民スポーツ大会および中国ブロック大会においてホッケー成年女子チームのトレーナーとして帯同する機会を得たので、事前準備を含めた活動内容について報告する。

【事前準備】

今大会で帯同させていただいたチームは日頃よりトレーナー帯同している実業団単独チーム（コカ・コーラボトラーズジャパン ホッケー部）であったため、選手の体調やコンディショニング状況については日常から把握していた。

ホッケーは11名でおこなう競技だが、国スポはルール上、選手の登録人数が14名と少なく、ホッケー競技は幾度でも選手交代が可能である為、ハードワークを強いられる。また、勝ち進めば、決勝まで3日連続での試合となるため、試合後の各選手のコンディション管理が特に重要となる。その為、帰宿後のスケジュールをスタッフ、選手とコミュニケーションを図りながら、把握し選手の身体ケアにかかる時間をしっかり確保できるように行った。また、コンディション管理ツールを用いてスタッフ間で各選手の状態を共有、随時把握できるようにした。

【活動内容】

大会期間中の主な活動内容は、選手のコンディション管理、外傷時の応急処置、試合前後のケアやテーピングなどのコンディショニング、スタッフとの連携などであった。

中国ブロック大会は、8月16日、17日に鳥取県の八頭高等学校ホッケー場にて開催された。今年も非常に気温が高く、熱中症予防のため、こまめな水分補給や塩分タブレットを摂取するよう促し、試合中には氷やアイスタオルでの冷却、試合後のアイスバスを用いた身体の冷却を重点的に行った。

本国スポは10月1日～4日、OSPホッケースタジアム、米原市伊吹第一グラウンドにて開催され、10月2日から1日1試合ずつ行われた。14名という、交代の枠が限られた人数で、3日間連続で試合に臨まなければならない。試合後の疲労を蓄積させないように、アイスバスでのリハビリや物理療法機器を用いたコンディショニングを行った。

【結果】

中国ブロック大会	第1位		
準決勝	5—0	鳥取県代表	
決勝	8—0	島根県代表	
本国	優勝		
準々決勝	4—0	佐賀県代表	
準決勝	2—0	滋賀県代表	
決勝	2—2	岐阜県代表	同率優勝

【反省】

昨年、優勝という結果であり、連覇を目指して臨んだ大会であった。決勝戦は2-2の引き分けで、同率1位という結果であったが、特に大きな怪我なく優勝という結果を残せたことは良かったと思う。年々、気温が上昇傾向にあるため、引き続き暑熱対策を考えていかなければと感じた。来年も連覇を目指し、トレーナーとしてサポートしていきたい。

最後になりましたが今回、このような帯同の機会をいただいた広島県体育協会、広島県ホッケー協会、広島県トレーナー協会各位、チームの選手やスタッフの方々、当院院長をはじめクリニック関係各位に深く感謝致します。



競技種目	ホッケー
種別	成年女子
帯同期間	2025年9月30日～2025年10月4日(5日間)
競技会場	OSPホッケースタジアム、米原市伊吹第一グラウンド
選手	14名
スタッフ	監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、トレーナー1名
競技成績	第1位

トレーナー活動集計表

項目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	
⑤	肩・鎖骨	
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	1
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	12
⑮	臀部	3
⑯	股・鼠径部	2
⑰	大腿	24
⑱	膝	8
⑲	下腿・アキレス腱	20
⑳	足	2
㉑	足趾	
㉒	その他	

項目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靭帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷(半月板損傷も含む)	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	6
②	疲労回復	21
③	リラクゼーション	16
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	13
⑥	安静固定	
⑦	消毒	
⑧	止血	
⑨	その他	

項目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	10
②	テーピング	8
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	18
⑥	ストレッチング	29
⑦	マニュアルセラピー	17
⑧	ホットパック	
⑨	足底板	
⑩	超音波	10
⑪	低周波	7
⑫	水治療	
⑬	その他	

項目	対処場所	延べ件数
①	現場	7
②	宿舎	31
③	医療機関	
④	その他	

国民スポーツ大会（中国ブロック大会・本国）

競技種目（種別）バスケットボール（少年男子）

所属 広島大学大学院医系科学研究科

氏名 尾上 仁志

【はじめに】

この度、第79回国民スポーツ大会中国ブロック大会・第79回国民スポーツ大会に出場したバスケットボール競技少年男子のトレーナーとして帯同する機会を得たので報告する。チーム構成は監督1名、コーチ3名、マネージャー1名、医師1名、トレーナー1名、選手12名であった。チームスタッフは昨年と同様の構成であり、円滑な情報共有ができた。

【事前準備】

はじめに問診票を記入してもらい、選手個人の現病歴や既往歴を聴取した。加えて、服薬状況も確認し監督やコーチと共有した。今年も気温が高く、練習中は熱中症に注意しOS-1の常備やこまめな水分補給、体重管理を行なった。ブロック大会前には、練習会や強化遠征などが実施され、トレーナーとして帯同した。

【活動内容】

第79回国民スポーツ大会中国ブロック大会は、2025年8月22-24日の期間で開催された。

8月22日は公開練習を行い、練習前に足関節捻挫に対するテーピングを行なった。宿舎では、アイシングやストレッチを中心に実施した。

8月23日は2試合行われた。1回戦の島根戦、2回戦の山口戦の前にそれぞれ足関節捻挫予防のテーピングを2件実施した。試合中に急性外傷は発生しなかった。宿舎では選手それぞれの部屋を訪問し、アイシングやストレッチなどのリコンディショニングに努めた。

8月24日も同様に2試合行われた。3回戦の鳥取戦、4回戦の岡山戦の前に足関節捻挫予防のテーピングをそれぞれ2件実施した。試合中に急性外傷は発生しなかった。

第79回国民スポーツ大会では10月3日に1回戦が行われた。私は選手とスタッフと共に10月1日に現地入りし、直前練習などの帯同を行なった。宿舎でストレッチなどのリコンディショニングを実施した。大会当日は足関節捻挫予防のテーピングを2件実施した。

【結果】

中国ブロック大会

会場：ヤマタスポーツパーク鳥取県民体育館（鳥取県）

（大会1日目）

○広島 91 対 57 島根

○広島 58 対 50 山口

（大会2日目）

○広島 76 対 70 鳥取

●広島 59 対 69 岡山

※3勝1敗で中国ブロック1位となり、第79回国民スポーツ大会（滋賀）に出場した。

第79回国民スポーツ大会

会場：ダイハツアリーナ（滋賀県）

1回戦 ●広島 54 対 70 東京

【反省】

本大会では、普段関わることの少ないチームの選手が多く、他チームの選手とも積極的にコミュニケーションを図る必要があった。その中で、大会直前になって初めて「常に服薬している薬がある」といった重要な情報が共有されるという事例も生じた。この経験から、日頃からより主体的に情報収集を行い、口頭だけでなく、スタッフの許可を得たうえでSNSなど複数の手段を活用するなど、多面的なコミュニケーション体制の構築が不可欠であると強く感じた。また、国民スポーツ大会ではあと一步のところまで勝利に届かなかったことから、選手のコンディショニングを最大限に引き出す重要性を改めて痛感した。多くの選手は自チームでの練習を継続しながら本大会の練習に参加しているため、練習量や負荷の調整についてはスタッフ間で綿密に共有する必要があることも学びとして得られた。

最後にこのような貴重な機会を与えてくださった広島県スポーツ協会、広島県バスケットボール協会、広島県トレーナー協会、そして所属研究室の皆様へ心より感謝申し上げます。

競技種目	バスケットボール
種別	少年男子
帯同期間	2025/8/22 ~ 8/24
競技会場	ヤマタスポーツパーク鳥取県民体育館
選手	12名
スタッフ	監督1名、コーチ3名、医師1名
競技成績	1位

トレーナー活動集計表

項目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	
⑤	肩・鎖骨	
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	4
⑮	臀部	4
⑯	股・鼠径部	4
⑰	大腿	4
⑱	膝	
⑲	下腿・アキレス腱	4
⑳	足	4
㉑	足趾	
㉒	その他	

項目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靭帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷(半月板損傷も含む)	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	5
②	疲労回復	
③	リラクゼーション	6
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	4
⑥	安静固定	
⑦	消毒	
⑧	止血	
⑨	その他	

項目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	
②	テーピング	4
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	
⑥	ストレッチング	10
⑦	マニュアルセラピー	
⑧	ホットパック	
⑨	足底板	
⑩	超音波	
⑪	低周波	
⑫	水治療	
⑬	その他	

項目	対処場所	延べ件数
①	現場	5
②	宿舎	10
③	医療機関	
④	その他	

わた SHIGA 輝く国スポ 2025 (中国ブロック大会・本大会)

競技種目(種別) ラグビーフットボール競技(成年男子)

所属 朝日医療専門学校広島校
氏名 河原 一仁

【はじめに】

わた SHIGA 輝く国スポ 2025 ラグビーフットボール競技成年男子の部の広島県選手団にトレーナーとして同行する機会を得たので報告する。

【事前準備】

ブロック大会前の実施された事前練習、遠征に同行し選手の外傷・傷害の状況、コンディションやテーピングの要望等の把握、そして選手とのコミュニケーションを積極的に行うことに努めた。

【活動内容】

ブロック大会は8月30、31日の2日間にわたってヤマタスポーツパークで行われ、4連勝で本大会出場を決めることができた。

本大会は10月6日、7日の2日間にわたって滋賀県希望が丘文化公園で行われた。

初日の予選リーグは3チームの総当たり戦でおこなわれ、上位2チームが決勝トーナメントに進出するという形式である。7人制の特徴は前後半7分ハーフ、ハーフタイム1分という競技時間となっておりブロック大会では1日で2試合、本国体では1日最大3試合行われる。さらに1日目は予選リーグ、決勝トーナメント1回戦の計16試合をおこなうことから、試合間の時間が1時間半以上空くこととなり選手のコンディション調整がとても重要になり、毎年とても苦勞するところである。

活動内容としましては、会場ではウォーミングアップ、クールダウン、テーピング、ストレッチ、マッサージ、応急処置などを主に行い、宿舎では、ストレッチやマッサージ、電気治療等の対応を行った。今年度は昨年同様に前日移動ということもあり、選手はコンディション調整も難しかったようでケアを希望する選手も多かった。

外傷としては、内転筋の肉離れ等が発生したが試合数も少なかったため全体的に発生数は少なかった。

広島県代表チームは、県内の実業団チームの

マツダと中国電力の選手を中心に構成されており、普段からサポートしている選手とそうでない選手が混在していた。さらに予選と本戦とメンバーが入れ替わりも多かった為、様々な場面で積極的に話しかけたりすることを意識したことで、本大会期間中はしっかりコミュニケーションをとりながらのサポートができた。

大会直前の選手の大幅変更や、リーグワンの試合との兼ね合いで練習等があまり実施出来てなかった状況もあり、結果は予選敗退と残念でしたが無事大会を終えることができた。

【結果】

ブロック大会 優勝

本大会 予選プール

vs 秋田県 (0-42) 負

vs 和歌山県 (10-40) 負

【反省】

毎年であるが厳しいスケジュールの中、少ないスタッフでのサポートという環境の中で選手をいかにいい状態にコンディショニングしていくかにとっても苦勞した。

またTUE申請が必要な選手がいたが、スポーツファーマシストの方と連携しながら無事に申請が認められ問題なく出場もできた。

最後にこのような機会を与えていただいた広島県スポーツ協会、広島県ラグビーフットボール協会、広島県トレーナー協会の関係各位に感謝申し上げます。



国民スポーツ大会（中国ブロック大会・本国）

競技種目（種別） ハンドボール（成年女子）

所属 おかもと整形外科スポーツクリニック

氏名 島 俊也

【はじめに】

今回、第 79 回国民スポーツ大会において、ハンドボール成年女子の中国地区大会および本大会に帯同する機会を得たので、以下にその活動内容について報告する。

【事前準備】

ハンドボール成年女子は、広島市を拠点に活動するプロハンドボールチーム「イズミメイプルレッズ広島」を主体に構成されていた。日頃から帯同しているチームであったため、選手個々のコンディションやテーピング、コンディショニングの内容について事前に把握することができていた。そのため、必要物品の準備や対応体制の構築については円滑に行うことができた。

【活動内容】

1) 中国地区大会

中国地区大会は、8月23日・24日の2日間、山口県下関市にて開催された。広島県は24日の決勝からの出場であったが、23日午後に岩国市にて実施した事前練習から帯同した。

練習時には、試合を想定したテーピングおよびウォーミングアップを実施した。練習終了後は宿泊地である福岡県行橋市のホテルへ移動し、コンディショニング対応を行った。

試合当日は、試合前のコンディショニング、テーピング、ウォーミングアップを中心に対応した。帯同期間を通じて、大きな外傷の発生はなかった。

2) 本大会

本大会は、10月3日から10月7日までの5日間、滋賀県彦根市にて開催された。広島県は2回戦から出場し、決勝まで計4試合を戦った。主な活動内容は、試合前のテーピングおよびウォーミングアップ、試合中の外傷対応、試合後のクールダウン、ならびに宿舎でのコンディショニング対応であった。大会期間を通じて、出場不能に陥るような外傷の発生はなかった。

一方で、メンバー外選手への対応には特に配慮を要した。本大会は、ハンドボールのトップリーグであるリーグ H の開催期間中に行われ、大会終了 5 日後には次節のリーグ戦が予定されている状況であった。そのため、ベンチ入りする 12

名以外の選手についても、試合に出場しない期間のコンディション維持が重要な課題となった。大会期間中は、メンバー外選手がボールを使用して練習できる環境がなく、ウォーミングアップ中もコート内に立ち入ることができなかつたため、限られた環境下で身体活動量を確保する必要があった。試合前のテーピングやウォーミングアップ対応の合間を縫いながら、コーチと連携し、メンバー外選手に対して個別にメニューを提供した。ベンチ入りメンバーへの対応に支障をきたさないよう配慮しつつ、メンバー外選手のコンディション維持を図るため、細かなスケジュール調整が求められた。毎夜、翌日の試合予定を確認し、コーチと詳細な打ち合わせを行いながら対応を進めた。この経験を通じて、シーズン中のプロチームが国民スポーツ大会に出場する際には、大会に出場する選手だけでなく、チーム全体のコンディションを俯瞰して管理する視点が不可欠であると感じた。

【結果】

1) 中国地区大会：優勝

決勝 ○広島県 37 - 21 岡山県
(広島県は決勝からの出場)

2) 本大会：準優勝

2回戦 ○広島県 42 - 18 福島県
3回戦 ○広島県 39 - 29 茨城県
準決勝 ○広島県 30 - 25 愛知県
決勝 ●広島県 37 - 41 香川県

【反省】

全帯同期間を通じて、大きな外傷の発生を防ぎ、決勝まで戦い抜くことができた点は一定の成果であったと考える。

一方で、今後に向けて改善すべき点も明らかとなった。特に、メンバー外選手への対応については、事前により具体的な運動メニューや活動スペースを想定し、準備しておく必要があったと感じた。今後は、プロチームが大会に出場するケースにおいて、出場選手と非出場選手の双方を含めたチーム全体のコンディション管理計画を事前に立案し、より計画的なサポートが行えるよう努めたい。

全国障害者スポーツ大会

活動報告書

第 24 回全国障害者スポーツ大会（わた SHIGA 輝く障スポ）

競技種目（種別）卓球（一般卓球）

所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室

氏名 長尾拓海

【はじめに】

この度、第 24 回全国障害者スポーツ大会わた SHIGA 輝く障スポに広島市選手団の卓球競技役員として帯同する機会をいただいたので報告する。

【事前準備】

同年の 7 月 12 日（土）に全国障害者スポーツ大会広島市代表内定選手や競技役員を対象に開催された第 1 回説明会を皮切りに、大会期間当日まで計 7 回の事前合同練習会が実施された。選手同士の顔合わせや、選手情報の収集、選手との信頼関係の構築、大会までの目標設定等を目的として、競技の練習相手や練習スケジュールの調整、コンディショニング指導を実施した。第 2 回説明会は大会開催約 1 週間前の 10 月 18 日（土）に開催され、大会期間中の具体的な行動日程の確認や、荷物の事前配送等について確認した。事前準備期間では、保護者やもう 1 名の競技役員、広島市障害者スポーツ協会の関係者、広島市障害福祉課の担当者とも連携しながら、各選手の様子や収集した情報を密に共有し、大会期間中の動きを事前に相談し、当日の対応に備えた。

【活動内容】

10 月 23 日（木）に広島から宿泊先の滋賀県近江八幡市に移動した。競技は 10 月 25 日（土）と 10 月 26 日（日）の 2 日間で開催された。広島市卓球競技選手団は、選手 5 名（身体障がい 1 名、知的障がい 2 名、精神障がい 2 名）役員 2 名の計 7 名で構成された。

会場は滋賀県野洲市の野洲市総合体育館であった（図 1）。

大会期間中は、引率・スケジュール管理、大会期間中の外傷対応、競技後のリコンディショニングを担当した。広島市障害者スポーツ協会に作成いただいたスケジュール表を活用し、選手自身で行動予定を立てられるよう促した。大会期間中の外傷対応では、共に帯同した役員で足関節捻挫疑いが発生し、会場内の救護室のドクターと連携しながら対応にあたった（図 2）。競技後のリコンディショニングに関しては、要望があった選手に対して体幹や下肢を中心としたリラクゼーションをはじめとして、ストレッチや競技前のテー

ピングを実施した。その他にも食事後、就寝前の服薬管理、体調確認など活動内容は多岐に渡った。

【結果】

障害区分ごとに 3 名のリーグ戦を戦い、5 名の選手のうち 1 位が 1 名（身体障がい選手）、3 位が 4 名（知的・精神障がい選手各 2 名）であった。

【反省】

金メダルを獲得できた選手がいたものの、ほとんどの選手は目標を達成することができなかった。長時間移動による疲労の蓄積や、競技開始までの長い待機時間、ウォームアップ場所の制限、全国大会規模での試合経験の浅さにより、競技開始序盤からパフォーマンスを最大限発揮しづらい環境であった。そのような状況下でのコンディショニングの調整・ケア方法について、事前合同練習会の時点で選手への確認や情報共有ができていれば、より良い結果になった可能性がある。

最後になりましたが、本大会に帯同する機会を与えてくださいました関係者各位に深く感謝申し上げます。



図 1. 競技会場の様子



図 2. 帯同役員の急性外傷対応時の様子

第 24 回全国障害者スポーツ大会（わた SHIGA 輝く障スポ）

競技種目（種別）ボウリング競技

所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室

氏名 高上凌弥

【はじめに】

この度、第 24 回全国障がい者スポーツ大会わた SHIGA 輝く障スポ 2025 での、ボウリング競技に広島市選手団の役員として初めて帯同させていただく機会を得たので、ここに報告する。

【事前準備】

同年 7 月から計 7 回行われた合同練習会に参加した。合同練習会では、試合を想定した、ゲーム数、投球形式での練習を実施した。大会当日は 10 月であり、時間は限られている中、合同練習会では、選手の性格把握や選手や他競技役員との信頼関係の構築を目的に積極的にコミュニケーションを行った。合同練習会では、選手の保護者も同席しており、選手の個性や服薬情報などの情報を収集した。他の競技役員の方は、何年もボウリング競技役員を経験されており、選手との関わり方やボウリング競技そのものについて教えていただいた。以上のような事前練習会で得た情報をもとに、大会期間中の生活上の注意点や必要準備物などを話し合い、当日に備えた。

【活動内容】

全国障害者スポーツ大会のボウリング競技は、10 月 25 日（土）～10 月 26 日（日）の 2 日間で、ラピュタボウル彦根で開催された（図 1）。ボウリング競技広島市選手団は、役員 2 名、選手 2 名（知的障がい：2 名）の計 4 名で、大会期間中は過ごした。彦根市の琵琶湖畔にある宿舎からバスに他県のチームと同乗し、15 分ほどの会場まで移動した。

10 月 23 日（木）に広島市を出発し、宿舎がある滋賀県彦根市へ移動した。10 月 24 日（金）には大会会場で公式練習に参加し、フロアの滑り具合やボールの曲がり具合といったレーンの状態の確認や、控え室からボウリング場までの動線確認を実施した。宿舎では、選手、役員 4 名で 1 室に宿泊した。宿舎の出発時間の確認や、会場到着後の動きなどの翌日の動きの確認のため、毎晩選手、役員全員でミーティングを実施した。10 月 25 日（土）、10 月 26 日（日）の競技本番の動きも、ミーティングで細かく確認し、予定の狂いなく動けるよう、選手への声かけなどのサポートに努めた。

【結果】

1 名が 4 位、1 名が 6 位であり、惜しくもメダルを獲得することはできなかった。しかし、2 名とも今回の経験を通じて、親離れの機会や他県の選手との交流の機会を得ることができ、有意義な時間を過ごせた。

【反省】

今回選手 1 名は、ボウリング競技経験が長かったが、もう 1 名は大きな大会は初めての参加であった。両選手とも貴重な経験であったと思うが、初めての選手に関してはこれまでの人生の中でもとても大きな経験のひとつとなるのではないかと考える。図 1 のように試合会場は観客も多く、初めての選手はとても緊張をしていた。その選手に対し、できる限りのコミュニケーションをはかり、合同練習会でのプレーができるよう支援をしたが、なかなか本調子になることができなかった。ボウリング競技において重要である、心理面のサポートに関して、未熟であった。事前のコミュニケーションから、選手の特徴をより詳細に把握し、選手に対する声かけの行い方など工夫することが重要であると感じた。

最後になりましたが、本大会に帯同する機会を与えてくださいました関係者各位に心より御礼申し上げます。



図 1. 試合会場となったラピュタボウル彦根

第 24 回全国障害者スポーツ大会（わた SHIGA 輝く障スポ）

競技種目（種別）水泳競技

所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室

氏名 石田礼乃

【はじめに】

この度、2025年10月25日（土）から27日（月）の3日間で開催されました、第24回全国障害者スポーツ大会「わた SHIGA 輝く障スポ」に水泳競技の広島市選手団として帯同する機会をいただいたため、ご報告させていただきます。広島市の水泳選手団は、選手が3名（知的障害1名、身体障害2名）とスタッフが2名の合計5名で構成されており、帯同期間は2025年10月23日（木）から28日（火）までの6日間でした。

【事前準備】

大会帯同までの期間に、合計7回の事前練習会がありました。事前練習会では、コーチの指導のもと選手ごとに種目や課題に応じた練習と、大会本番を想定してウォーミングアップとクールダウンを各選手が自分で考えて行っていました。この事前練習会で、私は主に2つのことに取り組む必要がありました。まず1つ目は、各選手のウォーミングアップ内容を把握し、本番の公式練習やレース前の練習で助言ができるようにすることでした。特に知的障害の選手では、本番の慣れない会場と他県の選手やスタッフで混雑した状況で、自分が何をすべきなのか分からなくなることがあるため、スタッフ側も練習内容を把握しておく必要がありました。次に、練習を見に来た保護者の方を含め選手とコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことでした。選手や保護者と会話をするなかで、日常生活では何ができて何ができないのか、何に配慮する必要があるのかを事前に把握する必要がありました。コミュニケーションを重ねることで、選手の方から困ったことや分からないことを聞いてくれるようになりました。事前にこのような関係性を作ることができたため、帯同期間中はお互いにコミュニケーションを図りやすい状態であったと思います。

【活動内容】

大会期間の活動内容は主に2つでした。まず、各選手のレース時間やその前の招集時間などを全て把握し、レース日のスケジュールを管理することでした。特に知的障害の選手は、時間の逆算が苦手であったため、前日に次の日のスケジュールを伝え、当日は様子を見て声をかけながら選手を誘導する必要がありました。招集時間から逆算してウォーミングアップ時間、コンディショニング

の時間、食事の時間などを調整しました。また、ウォーミングアップや公式練習では、障害ごとに泳ぐことのできるレーンや時間帯が決まっていたため、選手を会場内で誘導することも必要でした。次に、選手のコンディショニングです。大会会場では各選手団に割り当てられた控えスペースがかなり限られていたため、スペースが空いている時に私に対応してストレッチなどを実施しました。また、ホテルが選手と同室だったこともあり、ホテルのベッドでケアをして長時間の移動やレースによる疲労を管理しました。選手自身から“やってください”と言われることはないため、私から声をかけて実施するように意識していました。選手自身から言われることはないものの、聞いてみると“ふくらはぎが張っていて重い”など身体の不調を教えてくれ、対応することができました。

【結果】

今回は3名の選手が出場しましたが、全ての選手が銀メダルまたは銅メダルを獲得することができました。各選手が2レースに出場し、会場の広さと人の多さに1レース目はとても緊張したとの感想でしたが、2レース目は楽しんで泳ぐことができたと聞くことができました。

【反省】

私自身の反省としては、水泳競技に帯同させていただくのは今回が初めてであったため、会場内での動きが手探りな状態であったことです。帯同はされていませんがコーチとして指導をして下さっていた方から事前に色々と教えていただいていたのですが、当日に迷うことは多々ありました。そのため大会期間中は、どうしたらいいか分からないことがあれば、広島県選手団のスタッフの方に相談して教えていただきながら対応していました。分からないことがあるのは想定した状態で事前に色々と聞いてはいましたが、それが少し不十分な部分があったことは反省点であると思います。今後別の競技に帯同させていただく機会があれば、今回の反省点を活かして事前準備を徹底してまいります。

最後に、この度はこのような貴重な帯同の機会を与えていただきありがとうございます。今回の帯同経験を活かし、今後はさらに活動の場を広げていきたいと思っています。

協会活動報告

<定期総会>

日時：2025年5月17日（土）

会場：朝日医療専門学校広島校

<特別講演>

「パラアスリートのコンディショニング」

日時：2025年5月17日（土）

会場：朝日医療専門学校広島校

講師：前田 慶明 氏（広島大学大学院医系科学研究科）

<トレーナー派遣活動>

○JAPAN RUGBY LEAGUE ONE マツダスカイアクティブズ広島主催公式戦（担架要員）

日時：2025年5月31日 会場：Balcom BMW Stadium 帯同トレーナー：1名

日時：2026年1月10日 会場：福山通運ローズスタジアム 帯同トレーナー：1名

日時：2026年2月7日 会場：Balcom BMW Stadium 帯同トレーナー：3名

日時：2026年3月7日 会場：Balcom BMW Stadium 帯同トレーナー：5名

日時：2026年3月28日 会場：Balcom BMW Stadium 帯同トレーナー：6名

○2025 ばらのまち福山ローズカップ

日時：2025年8月9日～11日

帯同トレーナー：トレーナー協会会員12名

○2025 年中四国学生アメリカンフットボール連盟秋季リーグ戦

日時：2025年8月30日～11月8日

帯同トレーナー：トレーナー協会会員16名・非会員2名

<講師派遣活動>

令和7年度広島市スポーツ少年団指導者研修会

「子どもをケガから守るコンディショニング法」

日時：2025年9月6日（土）

会場：広島市総合福祉センター 5階 ホール A・B

派遣講師：河原 一仁 氏（朝日医療専門学校広島校）

令和7年度広島県トレーナー協会ワークショップ

「投球障害に強くなる！評価・治療の実践的アプローチ」

日時：令和7年11月2日

会場：朝日医療専門学校(広島校)

講師：前田 慎太郎 氏 (和光整形外科スポーツクリニック)

<第29回広島県トレーナー協会研修会>

「スポーツにおけるトレーナーに役割 ～陸上競技～」

日時：2025年12月14日(日)

会場：広島大学広仁会館

<特別セミナー>

令和7年度広島県トレーナー協会特別セミナー

「国際武道大学のアスレチックトレーナー教育について(過去と未来)」

日時：2026年2月20日(金)

会場：TKP ガーデンシティ広島駅前大橋

講師：山本 利春 氏 (国際武道大学体育学部・大学院)

<認定スポーツトレーナーフォローアップ研修会>

「現場で活かせるテーピングに必要な知識・評価・技術」

日時：2025年5月18日(日)

会場：朝日医療専門学校広島校

講師：島俊也 先生 (おかもと整形外科スポーツクリニック)

<認定スポーツトレーナー養成>

令和7年度広島県トレーナー協会認定スポーツトレーナー養成講習会

日時：2025年9月21日(日) 第1回養成講習会 会場：朝日医療専門学校広島校

日時：2025年12月7日(日) 第2回養成講習会 会場：朝日医療専門学校広島校

日時：2026年3月8日(日) 第3回養成講習会 会場：朝日医療専門学校広島校

<理事会>

第1回：令和7年5/17、第2回：7/17、第3回：9/25、第4回：11/27、第5回：令和8年3/5

<会員台帳管理>

会員数：154名(令和8年3月10日現在)

広島県トレーナー協会規約

第1章 総 則

第1条 (名称)

本会は、広島県トレーナー協会（以下「協会」という）という。

第2条 (事務所)

協会は、事務所を広島市に置く。

第3条 (目的)

協会は、会員相互の知識、技術の研鑽を行うとともに、スポーツ選手及び愛好者に対するコンディショニングについての指導、啓発等を行うことにより、健全なスポーツの発展に資することを目的とする。

第4条 (事業)

協会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① スポーツ選手に対するコンディショニングについての技術指導等のレベルアップを図るため、会員の研修を行うこと。
- ② 競技団体、学校などの要望により、必要なトレーナーを派遣すること。
- ③ その他協会の目的達成に必要な事業を行うこと。

第2章 会 員

第5条 (会員となる資格)

協会の会員となる資格は、協会の目的に賛同する個人とする。

第6条 (入会)

会員になろうとする者は、入会申込書を会長に提出し、理事会の承認を得なければならない。

第7条 (入会金及び会費)

- (1) 会員になろうとする者は、総会において別に定める入会金を納入しなければならない。
- (2) 会員は総会において別に定める会費を納入しなければならない。

第8条 (退会)

- (1) 会員は、退会しようとするときは、会長に届け出なければならない。
- (2) 会員が死亡したときは、退会したものとみなす。
- (3) 会費を2年間納入しないときは、退会したものとみなす。

第9条 (除名)

- (1) 会員が協会の名誉を棄損し、又はその設立の趣旨に反する行為をしたときは、総会において総会員の4分の3以上の議決により、これを除名することが出来る。

- (2) 前項の規定により会員を除名しようとするときは、除名の決議を行う総会においてその会員の弁明の機会を与えねばならない。

第10条（提出金品の不返還）

退会し、または除名された会員がすでに納入した会費その他の提出金品は、返還しない。

第3章 役員及び職員

第11条（役員の種別及び選任）

- (1) 総会に、次の役員を置く。

- ① 名誉会長 1人
- ① 会長 1人
- ② 副会長 3人以内
- ③ 理事 12人以上16人以内（会長及び副会長を含む）
- ④ 監事 2人

但し、①においては、理事会において推薦し、総会において承認をえる。

- (2) 理事は、総会において選任する。
- (3) 理事及び監事は、相互に兼ねることが出来ない。

第12条（総務）

- (1) 名誉会長は、協会の運営全般を統括する。
- (2) 会長は、協会を代表し、会務を統括する。
- (3) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
- (4) 理事は理事会を構成し、会務の執行を決定する。
- (5) 監事は、民法（昭和29年法律89号）第59条の職務を行う。

第13条（任期）

- (1) 役員の任期は、3年とする。但し、補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- (2) 役員は、再任されることができる。
- (3) 役員は、辞任した場合又は任期終了の場合においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

第14条（解任）

- (1) 役員に、役員としてふさわしくない行為があったときは、総会の議決により解任することができる。
- (2) 第9条第2項の規定は、前項の規定により、役員を解任しようとする場合に準用する。この場合において、同項中「前項」とあるのは、「第14条第1項」と、「会員」とあるのは「役員」と、

「除名」とあるのは「解任」と読み替えるものとする。

第15条（事務局）

- （1） 協会の事務を処理するために、事務局を設け、必要な職員をおく。
- （2） 事務局に関し、必要な事項は、会長が別に定める。

第4章 会 議

第16条（種別）

協会の会議は、総会及び理事会の2種とし、総会は、通常総会及び臨時総会とする。

第17条（構成）

- （1） 総会は、会員をもって構成する。
- （2） 理事会は、理事をもって構成する。

第18条（権能）

- （1） 総会は、この規定に別に規定するものの他、次の事項を議決する。
 - ① 事業計画の決定
 - ② 事業報告の承認
 - ③ その他協会の運営に関する重要な事項
- （2） 理事会は、この規約に別に規定するものの他、次の次回を議決する。
 - ① 総会の議決した事項の執行に関すること
 - ② 総会に付議すべき事項
 - ③ その他総会の議決を要しない会務の執行に関すること

第19条（開催）

- （1） 通常総会は、毎年1回以上開催する。
- （2） 臨時総会は、理事会が必要と認めるとき又は会員の5分の1以上もしくは監事から会議の目的たる事項を示して請求があったときに開催する。
- （3） 理事会は、会長が必要と認めるとき又は理事会の3分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求があったときに開催する。

第20条（招集）

- （1） 会議は、会員が招集する。
- （2） 総会を招集するときには、会員に対し、会議の目的たる事項及びその無いようならびに日時及び場所を示して、開会の7日前までに文書をもって通知しなければならない。

第21条（議長）

- （1） 総会の議長は、その総会において、出席会員の中から選任する。
- （2） 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

第 22 条（定足数）

会議は、総会においては会員、理事会においては理事の 2 分の 1 以上の出席がなければ開催することができない。

第 23 条（議決）

（1） 総会の議事は、この規約に別に定めるものの他、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。この場合において、議長は会員として議決に加わる権利を有しない。

（2） 理事会の議事は、出席理事の過半数の同意をもって決する。

第 24 条（書面表決等）

やむを得ない理由のために会議に出席できない会員又は理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。この場合において、前 2 条の規定の適用については出席したものとする。

第 25 条（議事録）

（1） 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- ① 会議の日時及び場所
- ② 会員又は理事の現在異数
- ③ 会議に出席した会員の数又は理事（会長及び副会長を含む）の氏名（書面表決者を含む）
- ④ 議決事項
- ⑤ 議事の経過及び要領並びに発言者の発言要旨
- ⑥ 議事録書名人の選任に関する事項

（2） 議事録には、議長及び出席した会員又は理事の中からその会議において選出された議事録署名人 2 名以上が書名しなければならない。

第 5 章 資産及び会計

第 26 条（資産の構成）

協会の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- ① 入会金及び会費
- ② 寄付金品
- ③ 事業に伴う収入
- ④ 資産から生じる収入
- ⑤ その他の収入

第 27 条（資産の管理）

資産は、会長が管理し、その方法は、理事会の議決により定める。

第28条（経費の支弁）

総会の経費は、資産をもって支弁する。

第29条（予算及び決算）

- (1) 協会の収支予算は、年度開始前に総会の議決により定め、収支決算は年度終了後2ヶ月以内に、その年度末の財産目録とともに、監事の監査を経て、総会の承認を得なければならない。
- (2) 年度開始前に予算が成立しないときは、成立する日まで前年度予算を施行する。
- (3) 前項による収支は、新たに成立した予算に基づくものとみなす。

第30条（会計年度）

協会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 顧問

第31条（顧問）

- (1) 協会に顧問を置くことができる。
- (2) 顧問は、総会の推薦した者につき、会長が委嘱する。
- (3) 顧問は、会長の諮問に応じる。

第7章 規約の変更及び解散

第32条（規約の変更）

この規約は、総会において会員の4分の3以上の同意を得なければならない。

第33条（解散及び残余財産の処分）

- (1) 協会を解散しようとする場合は、総会において総会員の4分の3以上の同意を得なければならない。
- (2) 解散の時に存する残余財産は、総会の議決を経て、協会と類似の目的を持つ団体に寄付するものとする。

第8章 雑則

第34条（委任）

この規約の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

付則

本規約は平成9年3月15日より一部改正により施行。

本規約は平成11年3月19日より一部改正により施行。

本規約は平成21年4月9日より一部改正により施行。

広島県トレーナー協会細則

I. 理事に関する項

1. 本会の理事は、会長、副会長、理事とする。
2. 本会の理事は、理事会を持ち、本会の会務を執行する。
3. 本会の理事は、会務をそれぞれ担当し、円滑な運営に努める。

II. 監事に関する項

1. 監事は、規約第 12 条により第 4 項の職務を行う。

III. 会務の運営に関する項

1. 会長は、局・部及び委員会を置き、会務運営にあたる。
2. 局長は、会長の任命を受けて局を統括する。
3. 担当理事は、会長の任命を受けて部を統括する。
4. 部長は、理事会の承認を得て会長の任命を受けて、部を運営する。部員は、部長が選任し会長が委嘱する。
5. 委員長は、理事会の承認を得て会長の任命を受けて、委員会を運営する。委員は委員長が選任し会長が委嘱する。
6. 会長が必要と認めるとき、理事会の承認を得て特別委員会を時限的に置くことができる。
7. 特別委員長は、理事会の承認を得て特別委員会を運営する。特別委員は特別委員長が選任し会長が委嘱する。
8. 会長が必要と認めるとき、部長・委員長及び特別委員長は、理事会で意見を述べるができる。
9. 局・部及び委員会の分掌規定は別に定める。

IV. 会費に関する項

1. この会費は、年額 6,000 円とする。ただし、学生会員の会費及び 11 月第 4 日曜日以降に入会した会員の初年度会費を 3,000 円とする。
2. この会の登録料は、3,000 円とする。
3. 本会の会費は、原則として 7 月 31 日までに全納するものとし、会費が納入された時点で会員としての議決権を得るものとする。
4. 退会する会員が退会以前に登録料・年会費を未納の場合は、全納した時点で退会と認めるものとする。

V. 選挙に関する項

1. 役員の選挙は、規定第 11 条第 2 項に基づき、この規定によって行う。
2. 選挙を行うため、選挙管理委員会を置く。

3. 選挙管理委員会は、会員の中より5名以内を互選して構成する。理事及び当該の選挙の候補者は、選挙管理委員会にはなれない。
4. 選挙管理委員の任期は、2年とする。
5. 選挙管理委員会は、投票50日以前に選挙すべき役員の定員を公示し、立候補を受けなければならない。立候補の締め切り日は、投票14日以前とする（郵送による立候補届の当日消印は有効とする）。
6. 理事の選挙は、会員の自由意志により立候補できる。
7. 立候補者が定員に満たないときは、理事会において候補者を推薦する。
8. 選挙管理委員が立候補したときは、別の選挙管理委員を選出し、立候補者は委員を辞退する。
9. 選挙は、無記名投票により行う。
10. 投票用紙は、選挙管理委員が定める用紙を用い、定数を超えて投票したものは無効にする。
11. 投票場の開閉時間は、選挙管理委員会が公示する。
12. 有効投票は、投票総数の3分の2以上を必要とする。
13. 候補者が定員の場合は、無投票当選とする。
14. 当選者が当選の当日から任期開始後60日までの間に退会、若しくは正当の理由で辞任又は辞退したときは、次点者を繰り上げ当選者とする。
15. 役員の選挙は、次の順序で行う。
 - ① 理事（定員連記投票）
 - ② 会長は、理事会において指名し、総会の承認を受ける。
 - ③ 副会長は、理事会の中から会長が指名し、総会の承認を受ける。
 - ④ 監事は、理事会において指名し、総会の承認を受ける。
16. 開票に関しては、立会人を2名置かなければならない。立会人は選挙管理委員が選任する。

VI. 付則

1. この細則の改廃は、総会の承認を得なければならない。
2. この細則は、平成9年3月15日より施行。
3. この細則は平成10年4月25日に、一部改正。

編集後記

スポーツ基本法の改正に伴い、令和 13 年（2031 年）に奈良県で開催予定の第 30 回全国障害者スポーツ大会から、大会名称を「全国パラスポーツ大会」へ変更することが発表されました。これまで長年にわたり「全国障害者スポーツ大会」という名称で親しまれてきましたが、社会全体における共生社会の実現や、多様性を尊重する理念の広がりを踏まえ、より前向きで国際的にも通用する呼称へと改められることになりました。

「Paralympic（パラリンピック）」という名称は、1964 年に開催された東京大会を契機に広く知られるようになり、以来、世界的に定着してきました。それから 60 年以上が経過した現在では、「パラスポーツ」という言葉も、障害のある人のスポーツを表す言葉として社会に浸透しつつあります。今回の名称変更は、こうした時代の流れであり、国内大会においても国際的な潮流と歩調を合わせる形となります。

今後は「全国パラスポーツ大会」という名称のもと、競技スポーツとしての魅力を一層発信することが期待されると考えます。

近年、デジタル技術を活用した情報発信の充実が求められています。広島県トレーナー協会は年会誌を電子化しました。これにより枚数制限がなくなり、図表・写真をカラーで配信できるようになりました。さらに印刷・製本、配送にかかる物理的コストが削減できています。オンラインジャーナル（電子ジャーナル）は、情報のオープン化、迅速化、入手しやすさが期待できます。

協会ホームページ (<https://www.hiroshima-trainer.com>) の「年会誌」よりどなたでもダウンロードすることができます。広島県トレーナー協会年会誌がより多くの方に情報の共有ができるようにしていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

2026 年 3 月

年会誌編集担当：広島国際大学 加藤茂幸

【投稿規定】

- 1) 広島県トレーナー協会会員であること。
- 2) 原稿は、A4 サイズ、2 段組み。
- 3) 各項目について執筆ください。
 - i はじめに
 - ii 事前準備
 - iii 活動報告
 - iv 結果
 - vi 反省
- 4) 写真を掲載する場合は、本人に掲載許可を得たうえで投稿すること。
- 5) 「国民スポーツ大会活動報告書ひな形」を参考に、執筆して提出ください。
- 6) 原稿の提出は e-mail にて提出してください。
- 7) 提出締め切り日は国民スポーツ大会終了後およそ 1 ヶ月以内（11 月中旬まで）。

広島県トレーナー協会ホームページ

<https://www.hiroshima-trainer.com>

広島県トレーナー協会 年会誌 第 27 巻

Journal of Hiroshima Trainers Association (Vol.27)

発行：2026 年 4 月 1 日（年 1 回発行）

編集：広島国際大学 加藤